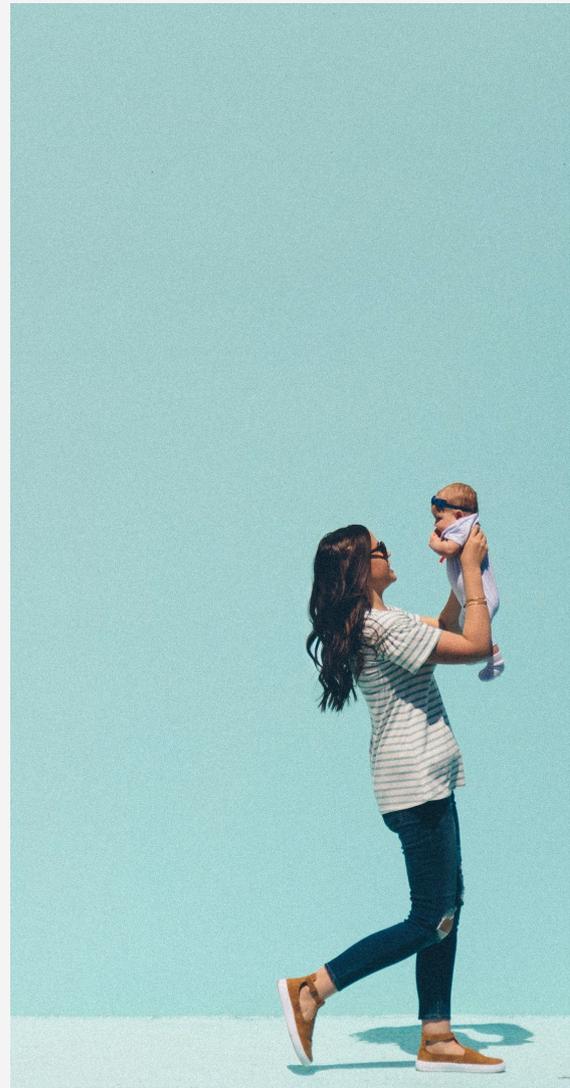


輪

～家庭と園 思いをひとつに～

花房山目黒駅前保育園333



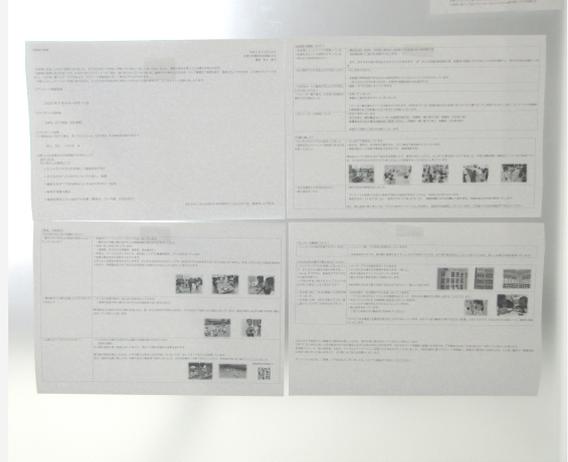
“新しい生活様式”での課題

新型コロナウイルス感染症対策として、園児の受け入れ、引き渡しをエントランスにて行なうこととなった。園内へ入室しないことや、エントランスの混雑緩和の為に保育者とのコミュニケーションの時間が減ったことで、保護者から不安や意見が聞こえてきた。

そこで今、保護者がどんな不安を抱き、何を求めているのかを探る為に“333アンケート”を実施し、①新しい生活様式の中での保育園の対応としてよかった点 ②ご意見、ご要望 を聞いた。

すると、どんな活動をしているのかわからない、写真だけでなく動画で子どもたちの様子を見たい、子どもたちは楽しめているのか、園での感染症対策は十分できているのかなど、“見える化”に対する要望が多数上がってきた。

今後も新しい生活様式での保育は続く予想されるため、子どもたちだけでなく、保護者も安心して気持ち良く過ごせるよう、アンケート結果をもとに試行錯誤を重ね、家庭と園が互いを思い合える園づくりを目指した。



エントランスの工夫

上記のアンケート結果を受け、エントランスを活用できないかを考え、下記の3つを行なうこととした。

1. “子どもたちの姿”と称して日々配信している写真とは別に、1週間の子どもたちの様子が分かる写真を各クラス6枚ずつピックアップして掲示すること、季節ごとの写真を各クラス100枚程度選び掲示すること、季節の制作を行った際には簡易的なポートフォリオと共に掲示することを始めた。
2. 動画で子どもたちの姿が見たいという意見から、ZOOMでの親子交流会を行い、日常の様子や園内で行った運動週間(運動会ごっこ)の様子を動画で視聴できる機会を作った。
3. 聞きたいことや相談等ある際には、パーテーションを用いて密にならない空間で個人面談を行えるということを掲示や口頭で伝えていった。



“見える化”から安心感へ

上記の内容を続け12月に改めて“333アンケート”を実施すると、

1. 子どもたちの様々な表情が見られ楽しんでいる様子が伝わってきた、どんな活動をしているのかわかりやすくなった、子どもと作品について会話が弾んだなど、プラスの意見がたくさん聞こえた。
2. 運動週間(運動会ごっこ)の様子を見て「出来る事が増え成長を感じられた」「友だちとの関わりが動画で見られてよかった」「最後にダンスがあり家族で楽しめた」などの意見が上がった。
3. 個人面談を利用する保護者が増え、ゆっくり時間を取り、保護者の不安を聞きながら、園での様子を伝えられ、安心や感謝の声が聞こえた。

実際に子どもの姿を見る、子どもの様子をゆっくり聞くなどが難しくなった今年度ではあったが、伝え方を工夫することで安心してきている様子が、会話やアンケートの中から伺えるようになった。



互いを思い合うには

今回の研究テーマである“家庭と園、思いを一つに”を目指すにあたって、保育園と家庭とのコミュニケーションを密に図ることは非常に大切なことと考えられる。新しい生活様式の中で「今」の子どもたちを伝える事がより難しくなっているが、今回は園に対する意見に耳を傾け、様々な策を練り、実行してきた結果、安心感へと繋がっていった。



コミュニケーションを図ることの大切さは理解しつつも、十分に時間が取れない今、今まで通りの方法でなく、別の様々な方法を模索し続ける一歩を踏み出す事が大切であると考えられる。



今後も私たちの思いを伝えながら、様々な保護者からの意見にも耳を傾け、家庭と園が思いを一つに、子どもたちの学びが深まるよう協力し合える園づくりを目指していきたい。